

学校教育目標	自ら学び、自他を大切にして、社会に貢献する生徒を育てます				
	「自ら学び」(知) 「自他を大切にして」(徳)と(体) 「社会に貢献する」(公)と(開)				
学校概要	創立 77 周年	学校長 永島 靖之	副校長 高橋 力	3 学期制	一般学級: 20 個別支援学級: 3
	児童生徒数: 747 人 主な関係校: 中和田小学校・和泉小学校・伊勢山小学校・上飯田小学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	中和田中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<自己肯定感と思いやりの心> <持続可能な社会の創造に貢献する力>	中和田中学校 中和田小学校 和泉小学校 伊勢山小学校	自ら進んで挨拶ができる児童生徒 地域の一員として行動できる児童生徒 ・地域行事等での小中の協働活動を通して、地域との連携を進めて、地域の一員としての自覚・責任・行動を引き出していく。 ・小中の授業交流・文化交流を通して小中の一貫教育を進め、義務教育9年間で育てる児童生徒像を共有して共通目標の実現を図る。

中期取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育を推進し、生命を大切にする心や他人を思いやる心、規範意識を育てます。 ・授業や行事、部活動等の取組を通じて、達成感や自己有用感を得られるように取組の充実を図ります。 ・特別支援教育の充実を図り、個々の生徒への指導・支援に取り組めます。 ・生徒が一人ひとりの個性を認め合い、互いに高め合おうとする姿勢を育みます。 ・地域活動に積極的に参加し、地域とのつながりを強めることで、地域社会に貢献できる力を育てます。 ・地域と連携したキャリア教育の実践により、職業観の育成を図ります。
--------	---

重点取組分野		具体的取組
知	授業改善	①教職員が連携し、複数の教科等の連携しながら、学校教育目標を踏まえ指導・評価計画を作成し、学習の効果の最大化を図る。 ②学習状況調査や学校評価、授業評価アンケートの結果をもとにして、各教科で授業改善を図る。
担当	学習指導部	
徳	人権教育	①道徳の授業を中心に、各教科でも人権を意識した授業展開を行えるように図り、一人ひとりが個性を認め合える学校づくりを行う。 ②「よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト」や「人権作文コンテスト」の参加等、生徒や教職員が人権感覚をみがく機会を積極的に設ける。
担当	学習指導部	
体	健康教育	①健やかな体をつくっていく姿勢が身につけられるよう、各種調査結果を活用しながら、保健体育科における体力・筋力向上のための運動を改善しながら継続する。家庭科における食事の大切さやバランスの良い食生活についての学習を充実させる。 ②体育的な学校・学年行事において、コロナ禍前の活動へ徐々に広げ、生徒主体の運営を行う。
担当	保健安全指導部	
公開	ESDの推進	①ESDの考え方が広く浸透してきた本校では、授業や学級、生徒会などあらゆる場面で学校教育目標の実現をする。 ②ESDカレンダーを見直し、教職員が連携し、複数の教科等の連携を図りながら、質の高い教育の実現を目指す。
担当	ESD推進委員会	
いじめへの対応		①いじめ防止研修を行い、教職員のいじめに対する感度を高くするとともに、教育相談や毎月実施する生徒相談アンケート・いじめアンケートを通じて生徒一人ひとりの実態把握に努め、細かな変化を見逃さない体制を作る。 ②月1回以上いじめ防止対策委員会を開催し、認知された案件の経過確認を丁寧に行うことで、適切な支援を検討するとともに再発防止に努める。また生徒の心情に寄り添って、積極的にいじめを認知する。
担当	学校いじめ防止委員会	
人材育成・組織運営(働き方)		①主幹教諭等、中核となる教職員を機能的に配置し、各キャリアステージの教職員の人材育成が進むように組織を編成するとともに、OJTを推進する。 ②ICTの活用や外部資源の積極的な登用で教職員の負担軽減を図り、職場環境の改善を推進する。
担当	学年・教務部	
地域学校協働活動		①地域学校協働活動推進員と連携し、地域の人材を積極的に活用したキャリア教育を推進する。 ②学校運営協議会委員による学校関係者評価の精度を高めるために、学校運営競技委員が授業や行事を参観する機会を増やすとともに、細やかな情報発信を行う。
担当	地域連携委員会・総合	
特別支援教育		①月に一回、特別支援教育委員会を開き、生徒状況の把握と今後の支援について論議する場を設ける。 ②特別支援教室の環境整備を進め、生徒の実情に沿った支援体制を構築する。 ③行事等を通して、個別支援級生徒との交流を図り、インクルーシブ教育を推進する。
担当	特別支援教育推進委員会	
生徒指導		①生徒相談アンケートを毎月実施し、生徒の実態把握を速やかに行えるようにする。 ②年2回のいじめアンケートやY-Pアセスメントを通じて、支援を必要とする生徒へ素早く対応できるようにする。 ③中和田スタンダードの研修を行い。全職員の共通認識で生徒指導に当たる。
担当	生徒指導部	
担当		b10